

(一) 貯蓄計画

包括的ナル貯蓄一節約計画ハ、年總生産物価格ヨリ国民ノ现实的生計費總額ヲ控除セル金額タラシメザルベカラズ

新貯蓄ノ対象タル要因ハ次ノ如シ

左ニ示スハ吸收順位ニシテaヨリdマデハ經常的ナルモ準備補充ノ状況ニ依ジテ以下ノ吸收ヲ準備ス

- a 設備費用ニヨル資金
  - b 設備費用ガ原材料化セル場合ハ買上価格ト利用価格ノ差
  - c 着在購買力中現実化シ得ルト推定セラル總額
  - d 国民所得中總生計費ヲ差引ケル總額
  - e 減価償却相当分
  - f 總生計費中第二次生計費
  - g 計画年度ニ於ケル流動財補充予定額
- 2 資金計画遂行ノ條件トシテハ貯蓄ニ対シテハ次ノ実行ヲル

1. 国民所得以外ノ購買力ノ全部的吸収

ロ 超過利得ノ全部的吸収

ハ 返藏貨幣ノ可及的吸収

ニ 都市ト農村生産部門間ニ一方ノ貯蓄増ハ他方ノ貯蓄減トシテ現ハル、突ニ着目シ、貯蓄ノ全量ガ集中化シソノ配分ヲ資金計画中心当局ノ意志ニ委ネラレ得ルコト

ホ 貯蓄率ノ上昇ハ専ラ生活財ノ価格騰貴防止ノ見地ヨリ為サル、コト

ハ 投資ニ対シテ常ニ貯蓄ガ先行シ得ル如ク時期ノ計画ガ立テラル、コト

3 貯蓄一節約ノ種類別ニ表示セバ次ノ如シ

- イ 租税 献納金 (個人 法人別)
- ロ 金融機関預貯金 ( )
- ハ 直接投資 ( )
- ニ 手持返藏金 ( )

イ 租 税 額

資金計畵が租税額ノ決定ニ与ヘウル基準ハ、相対的ノモノナリト  
 虽モ範圍ハ國民所得ヨリ國民生活資金、産業補充資金ヲ控除セル  
 範圍ニ屬サシムルコトハ当然ナリ。当該年度ニ於ケル資本ノ集中  
 企業合同、及び所得分布ノ変動ヲ考慮シ、右ノワケ内ニテ直接税  
 ノ總額ハ決定セラルベシ。  
 資金統制ノ高度段階ニ於テハ間接税ハ廃絶セラルベキ運命ニアレ  
 ドモ、間接税ハ貨幣的國民所得ノ配分トシテテハナク、追加トシ  
 テ現ハル、コトヨリミテ、資金計畵ノ見地ヨリハソノ抑制が願ハ  
 ル、モ当然ナリト云フベシ。  
 直接税モ賃金給与ソ引上ノ動因タルベキモノナレバ租税計畵ハ分  
 配統制トノ關係ヲ示スコト  
 金融諸機関貯蓄計畵  
 資金計畵遂行機関トシテノ金融機関ノ整備配置ヲ前提トナセバ、

(二) 投資計畵

資金計畵ハ投資ヲ貯蓄ニ一致セシムルニアリ。即チ投資計畵ハ貯蓄計  
 畵ノワケ内ニ於テ処理セラルベキ要請ヲ有スルモノナリ。計畵ガ所謂  
 機動性ヲ示シ得ル前提條件ナリ。

イ 投資計畵ノ対象トナルモノハ左ノ諸要因トス

- イ 公債
- ロ 官公債上金
- ハ 株式
- ニ 社債
- ヒ 貸出金

自己投資  
退藏金投資

ハ 国外投資

二 資金計画ノ投資ニ対スル要請次ノ如シ

資金計画ニ於ケル投資計画ハ從ヒテ当然ニ財（物及ビ利益）ノ価格

水準維持ニ於ケル存在量ト対応セザルベカラズ

投資計画ハ集中的ニ單一意志ニヨリ決定セラル、コト

(三) 金融（信用）個別配分計画

金融個別配分計画ノ趣旨トナストコロハ、金融ニヨリ無條件自由購買

力ガ造出セラル、コトヲ廢絶シ、財政産業ノ各單位別ニ用途商品便益

別ノ口座ヲ設定スルニアリ

一 政府ノ貨幣收支計画

政府資金ノ收支ニツキ四半期計画ヲ設定シ經常支出ニツイテハ支出

用途ヲ定メ流用ヲ禁スルコト、コレガ遂行組織ハ第六部ニ於テ説明

スベキコト

二 各種財団法人ノ收支計画

特定金融機関ニ用途別口座ヲ持ツベキコト

三 企業運轉資金計画

一 事業資金總量ニ就キテハ第一部ニ於テ生産計画ノ、期許ニ於テ概定

セラレタリ

本部門ニテハ主トシテ運轉資金計画ヲ各産業部門別各企業集團別ニ

樹立スルヲ要ス

〇 運轉資金ノ總額ハ第一部ニ於テ算定セラレタルモノナルモ、任意ノ

期向ニ於ケル所要量ヲ算定スルコトハ資本ノ回轉トノ関係ニ於テ決

定セラルベキモノナリ、本計画樹立ニ當リテハ資本ノ回轉期間測定

ヲ出發點トナスヲ要ス

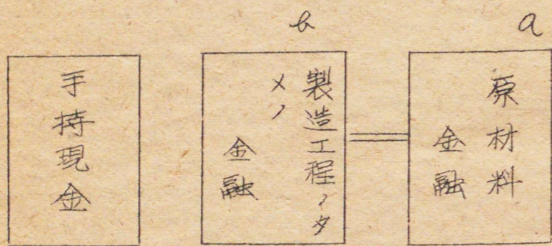
特定金融機関ハ企業ノ借入金並ニ自己資金ノ用途ヲ監視シ、ストツ

四  
 夕ノ過度ノ買ダメ 法定価額外ノ取引 運転資金ノ固定資本化 其  
 他浪費ヲ防止スルコト 資金計畫遂行者トシテノ金融機関ハ無条件  
 購買力ノ金融ヲ行フモノニ非スシテ 特定財ノ特定量ニ対スル法定  
 価格ニヨル支拂ヲ行ハシムルニアリ  
 以上ノ目的ノタメニハ商業手形ハ廃絶スルコト 手形割引ハ企業間  
 ノ自由取引ノ結果ヲ受身的ニ金融スルモノニシテ計畫金融トハ正ニ  
 背馳スルモノナレバナリ 又原則トシテ小切手ニヨル預金通貨ノ流  
 通ヲ禁ジ 当座預金ハ現金收支ノ必要限度(賃金給与 小額取引)  
 ニ止ムルコト

工業金融

一 計畫ハ次ノ条件ヨリ成ル  
 人 予定計畫 原料購入ノ労賃  
 計畫的貸付ノ平均期間  
 又 非予定的計畫……計畫ノ編成者ヲ行ヒ得ザル諸事情ニヨリ緊急ニ

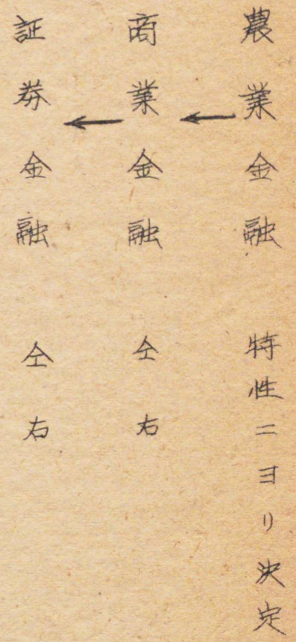
一 各企業ニ対スル信用ノ限度決定規準  
 一 四半期毎ニ各会社ハ資金繰予定表ヲ作成スルコト



種類別設定

追加原材料 下請 労力ノ追加ニ対スル自由主  
 義容認部分

〇 生産行程ノ予想外延長ニヨル追加資金ノ要求



通貨計賬

通貨計賬ニヨリ対象トセラル、ハ、現金並ニ小切手ナリ。信用統制ノ以上ノ如キ遂行ヲ前提トセバ現金ノ支出ト回收ハ主ニ家計ヲ中心トシテノ動キニヨリ決定セラルベシ。企業間並ニ企業ト企業間ノ現金収支ハ一定限界以下ノ小額ニ限ラル、トナスコトハ前記セリ。

翌五ノニ表、如キ測定ヲ基準トス。

國民現金收入(月別、田半期、地域別)

	國家ヨリ個人ヘノ支拂	企業ヨリ個人ヘノ支拂	個人ヨリ個人ヘノ支拂	個人預金引込金額
労金(著手当ヲ含ム) (支拂期別)				
俸給等(著手当ヲ含ム) (支拂期別)				
利子 貸料(各種)				
配当				
補助料(車金)				
除札 金金費				
保送内 贈				
独立小経営者ノ收入				



第五部 に対スル

補遺

軍需財部門ニ対シ計画外ノ追加需要ヲ生シタル場合ト雖モ、配分計画ニ於  
 テ現物資本並ニ貨幣資本ノ予備ヲ有スルトキハ追加信用ヲ引起サズ、又、  
 生産計画ノ変更ヲモ呼ビ起スコトナキハ明ラカナリ。  
 此処ニ討求ヲ要スルハ追加信用ニヨリ資本ノ回表、税関、資本配分、生産力  
 配分ニ変更ヲ引起シタル場合ノ對内係ノ変化、及び各種財ノ価格騰貴ノ状  
 態ナリ。  
 前提トシテ生産財、労働力（拡充表式ハ労働力ノ予備ヲ前提ス）ノ全体量  
 ニ変化ナシトス、政府支出（赤字公債ニヨル）ニヨル軍需財追加需要ヲ出  
 発点トシ追求セバ凡ソ可能ナル場合ハ次ノ如キモノナルベシ。

前掲卜スル計画組成

第一式 單純再生産

第一表

	K	W	P	O	E	C	
						$W\frac{2}{8} + P\frac{3}{8} = \frac{3}{2}$	$W\frac{1}{8} + P\frac{3}{8} = \frac{1}{2}$
g	20	10	10	40	20	20	$2 \times 25 + 1 \times 25 = 15$
K	60	30	30	120	60	60	$3 \times 25 + 1 \times 25 = 45$
L	40	40	40	120	80	80	$35 + 25 = 60$
計	120	80	80	280	160	160	$70 + 50 = 120$
							$10 + 30 = 40$

g = 運需財生産部門      K = 生産財(價格)      O = CK + E = 總價格      S = 貯蓄  
 K = 生産財生産部門      W = 労働者( )      E = W + P = 所得      P = 超過利潤  
 Ke = 流動財      P = 利潤      滴( )      C = 消費額      ΔI = 追加信用投資  
 L = 生活財生産部門      ΔR = 追加收入

技術構成 K:W 一の表示、価格組成 K:E 一の價格表示、

利潤率 =  $\frac{P}{E+K}$

消費率  $\frac{C}{S}$

g    K:W = 2:1      g    K:E = 1:1      g     $\frac{P}{E+K} = \frac{1}{3}$       P  $\frac{S}{E} = \frac{3}{8}$   
 K    K:W = 2:1      K    K:E = 1:1      K    " =  $\frac{1}{3}$       W  $\frac{S}{E} = \frac{1}{8}$   
 L    K:W = 1:1      L    K:E = 1:2      L    " =  $\frac{1}{2}$       E  $\frac{S}{E} = \frac{1}{4}$

固定率  $Kg:Ke$

g     $Kg:Ke = 5:1$

K    "    = 5:1

L    "    = 2.5:1



計量組成

第二式 拡張生産

A. 拡張15日

第二表

K#	CKKc		W	P	O	拡張及準備	C/E	S/E	深 度	越 高	当期 費用
	A	B									
g	30	3	15	15	60		15	15	3.9		62.93
g'	1.95	0.1	0.49	4.9	29.3		0.49	0.49			
K#	70	7	11.5	17.5	10.5	105-43=62	1.75	1.75			25.6
K#	63	7	11.2	11.2	6.79	6.99-2.6=4.19	1.12	1.12	9.1	10.29	25.6
K#	41.5	0.4	1.12	1.12	4.79	4.50-4.17=33	7.5	7.5	3.9	3.5	44.3
Kc	300	30	7.5	7.5	4.50						
Kc	19.5	1.9	4.9	4.9	29.3	29.3-27.3=2	4.9	4.9			
L	60	3	60	60	180	180-10.41=129	60	60	3.9	13.77	173.5
L'	3.9	0.2	3.9	3.9	11.7	11.7-6=5.7	3.9	3.9			
To	460	43	167.5	167.5	79.5		167.5	167.5			
To	29.9	3.6	10.41	10.41	50.72		10.41	10.41	53.9	59.08	

固定設備率  $\frac{K\#}{K\# + Kc} = \frac{2}{3}$

技術組成  $\frac{W}{K\# + Kc} = \frac{1}{6}$

価格組成  $\frac{W + P}{C + K} = 1$

利率  $\frac{P}{W + K} = \frac{1}{2}$

投資率  $\frac{P}{L} = \frac{1}{2}$

一 運搬生産部門へ追加政府支出分質的技術組成ヲ変化センザル場合  
 「短期促進」の場合

- イ 労働者ノ数ハ増大セズ。労働時間延長ニ対シ賃金増
- ロ 利増
- ハ 原材料等流動材ノ納期促進ノタメ流動財価格増
- ニ 納期ヲ促進セラレタル流動財部門ノ賃金反比利増
- ホ 前記而部門ノ所得増中消費支出相当分タケ消費財ノ価格増
- ヘ 消費財ノ価格増分ハ消費財部分ノ利増増トナル
- ト 賃金増ハ追加投資対象分以外ニ波及ナシ
- チ 生産財価格増波及微弱

り 軍需財価格増減及ナシ

KK

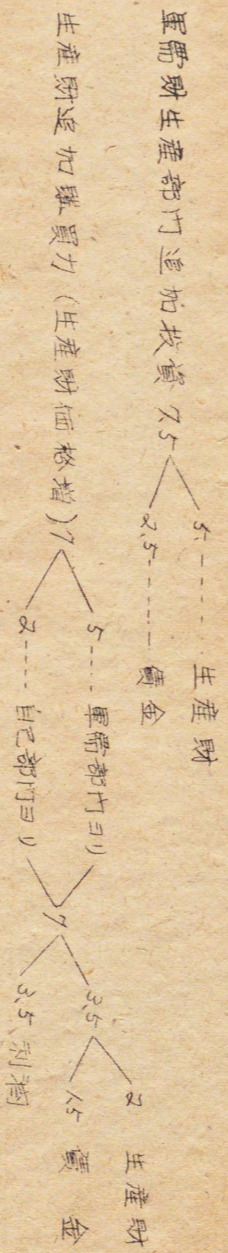
政府支出 (赤字)ニヨル軍需財購買ガ全部門ノ質的  
技術組成ヲ変化セズ 価格組成ノミヲ変化セシメタル場合

第三表

	ΔR	ΔI	K	W	P+P'	O	E <sub>W+P</sub>	C <sub>3/2</sub> E	S <sub>1/2</sub> E	P' <sub>貯蓄率</sub>
計画組成			20 60 40	10 30 40	10 30 40	40 120 120	20 60 80	15 45 60	5 15 20	
前期価格増	9 K L	7.5 — —	5 2 —	2.5 1.5 —	2.5 3.5 7.5	10 7 7.5	5 5 7.5	5.75 3.75 —	1.25 1.25 7.5	— 2 7.5
	24.5	11.0	7	4.0	13	24.5	17.5	7.5	10	

(計画外)支出 10----- 軍需財価格増分

利潤金 2.5  
賃金 2.5  
生産財 5



所得増 = 17.5

生産財追加購買力カズ = 全体ノ消費増

貯蓄増 (賃金貯蓄 + 利潤貯蓄 + 超過利潤) = 政府赤字支出  
価格増 = 追加購買力總量

KK

政府支出 ( ) = ヨル軍需財需要ガ生活財生産部門ノ  
技術組成 = 変化ヲ生ゼシメラル場合 (実物資本ノ相乗)

第四表

計画組成	第一期		第二期		第三期	
	g	k	g	k	g	k
KC	20	40	22.5	37.5	25	35
W	10	40	11.25	38.75	14.5	38.5
P	10	40	11.25	38.75	14.5	38.5
O	40	120	45	115	48	112
	120	120	120	115	120	112

(第一期並ニ第三期 = 第二期ノカレ部門ヨリ抜取ル形)

又 追加支出——追加投資ガ生活財部門ノ技術組成ニ変化ヲ与ヘル場合  
(軍需事業家ガ生活財部門ヨリ生産財並ニ労働者ヲ二倍ノ価格ニテ引  
抜キタル場合等)

- イ 以後每期同額ノ追加投資 (同価格取引) ガ行ハル、限  
リハ技術組成ニ一回的变化ヲ引起スノミナリ (第四表)
  - ロ 追加投資ノ場合生産財及ヒ労働力ニ対スルニ倍支出ハ全体的ニ価  
格増ヲ波及セシムル傾向アリ
  - ハ 追加支出ニヨリ軍需財追加生産部門ガ形成セリトセバ、同部門  
ノ救期回轉ヲ通シ同部門内ニ同額ノ貯蓄ヲ生ズ (第五表)
- 期向算出ハ次ノ如シ

$$g \text{ 部門ヨリノ追加支出回収期間} = \frac{\text{追加支出}}{\text{追加支出} \times \text{所得率} \times \text{貯蓄率}} \times \text{資本回収期間}$$

ニ 追加支出ノ全生産部門ヘノ影響ヲ見ルニ資本ノ一回転期ニ於テ如何ナル貯蓄率ヲ設定スルトモ必然的ニ同一期ニ追加支出相当分ノ貯蓄ヲ形成ス——但シ超過利潤ハ必ず吸収シ損失分ハ必ず補償スルコトヲ前提トス（第九表）

ホ 貯蓄率如何ニヨリ影響ヲ受クルハ生活財価格ノ騰貴程度及賃金ヘノ影響ヲ独立的ニ考慮セバ同財生産部門ノ利潤ナリ

ハ 追加支出ニヨル価格騰貴影響ハ生産財、軍需財、労金ニハ直接的デアリ、生活財ニハ間接的（貯蓄率ヲ通ジ）ナリ

ト 生産財ノ労金ニ倍ト云フ新値設定ガ継続スル限り、法定価維持ノ反作用ヲ受ケテモ尚部分ヨリ全体ヘ底カヲ以テ波及スル必然性アリ、及ニ第二期ニハ全生産量ノノ不ニ対シ第三期ニハ $\frac{1}{2}$ ニ対シ第四期ニハ $\frac{3}{4}$ ニ対シ第五期ニハ全量ニ対シ新値ガ影響ヲ有セリトス

ナ 生産財ニ対スル追加購買力ハ四部門ヨリ同時ニ起リ、賃金騰貴ト

共ニ總価格ヲ同一割合ニ騰貴セシムベシ（第六表）

リ 同枚ノコトハ計重軍需部門ニモ波及シ、調糸価格ノ改訂ヲ迫ルコト第七表ニ見ラルベシ

ヌ 消費財価格ハ前二部門ノ追加消費並ニ自己部門ノ追加消費ニヨル追加購買力ニヨリテノミ価格騰貴影響ヲ受クルモノトス（第八表）

ル 仮ニ計画組成ニ於ケル貯蓄率ガ追加所料分ニソキ維持セラレタリトセバ、技術組成変化ニヨル生産量減少ノタメ生活財ハ單位当リ他ノ生産財、賃金ノ騰貴率以上ノ騰貴率ヲ示ス（第九表） 従ヒ

オ 仮ニ計画組成ヨリモ高率ノ貯蓄率ヲ設定セバ生活財ノ価格騰貴ハ他ノ二財ノ騰貴ニ及バズ、ソノ価格差ハ生活財部門ノ苦惱ヲ示シ

末ル、コノ場合、貯蓄總額ハ政府追加支出ニ補助金ヲ加ヘタル額ニ相当スルダケハ必ず形成セラル、ナリ（第十表）（第十三表、第十四表）貯蓄率ノノ場合（第十二表）貯蓄率〇ノ場合（第十一表）

軍需財追加生産部門 (8')

第五表

ΔR	ΔO	ΔK	ΔM	ΔW		ΔP (追加利潤)		ΔC	ΔS
				$\frac{\Delta C}{8}$	$\frac{\Delta S}{8}$	$\frac{\Delta C}{8}$	$\frac{\Delta S}{8}$		
10	10	5	2.5	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	1.25
10	10	5	2.5	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	2(1.25)
10	10	5	2.5	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	3(1.25)
10	10	5	2.5	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	4(1.25)
10	10	5	2.5	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	5(1.25)
10	10	5	2.5	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	6(1.25)
10	10	5	2.5	2.19	0.31	1.56	0.94	3.75	7(1.25)
8									

K11

生産財生産部門 (K)

第六表

追加購買力	總價格	生産財資本	資金	追加買金		追加利潤		追加費	追加貯蓄
				消費 $\frac{1}{8}$	貯蓄 $\frac{1}{8}$	消費 $\frac{5}{8}$	貯蓄 $\frac{3}{8}$		
0	120	10	30						
1 5	127.5	10	30			7.5			7.5
2 5 5 15 5	150	7.5	37.5	6.6	0.9	4.8	2.7	11.4	3.6
3 5 10 30 15	180	9.0	45	13	2	9.5	5.5	22.5	7.5
4 5 15 45 25	210	10.5	52.5	19.5	3	14.25	8.25	33.75	11.25
5 5 20 60 35	240	12.0	60	26.2	3.8	18.8	11.2	45	15

K11

軍需財計産部門 (9)

第七表

科目

追加貯蓄	總生産格	資本財格	現金	追加現金		追加利潤		追加貯蓄	追加本	又追加公債
				消費 $\frac{1}{8}$	貯蓄 $\frac{1}{8}$	消費 $\frac{1}{8}$	貯蓄 $\frac{1}{8}$			
0	40	20	10							
1 125	7.5 125	20	10	2.5	2.5	2.5	2.5	37.5	12.5	7.5 10
2 125 125 36	139	25	12.5	1.9 4.6	1.85 6.5	3.75	12.5	12.5	7.5	10
3 125 25	7.5 187.5	30	15	5	5	7.5	2.5	2.5	15	20
4 125 37.5 11.25 23.75	70	35	17.5	7.5 4.4 4.6	7.5 3.1 1.9	11.25	2.5	2.5	22.5	30
5 125 5	1.5 28.75	40	20	10 6.6 2.9	10 4.85 2.85	15	5	30	40	
				10 8.7 1.3	10 8.3 3.7					

消費財生産部門 (2)

第八表

追加購買力	總價格	資本財格	現金	追加現金		追加利潤		追加貯蓄	追加公債
				消費 $\frac{1}{8}$	貯蓄 $\frac{1}{8}$	消費 $\frac{1}{8}$	貯蓄 $\frac{1}{8}$		
0	120	40	40						
1 37.5	追加 6.37	2.5	追加 1.75	1.31	0.44	2.12	0.81	26.2	12.5
2 37.5	39.5 11.4	5	7.5	2.63	1.37	12.65	2.02	11.25	12.89
3 37.5	7.5 22.5	1.5	11.5	13.13	4.39	27.5	14.37	26.25	12.74
4 37.5	11.25 33.75	2.5	27.5	20.63	6.89	37.5	18.89	41.25	23.74
5 37.5	1.5 4.5	3.5	37.5	28.13	9.39	47.5	19.39	56.25	28.74

△元 = 價格増分

1.81

KK

価格增加分ノ分配 (1) 貯蓄額 =  $W \frac{1}{8} + P \frac{3}{8} + \text{超過利潤}$

第九表

期間	1	2	3	4	5	6	7
生産物価格	生産財	賃金 W	利潤 P	所得 E (2+4)	消費 C $\frac{1}{8}W + \frac{3}{8}P$	貯蓄 S	
1	10 7.5	5 2.5	2.5 —	2.5 7.5	5 7.5	3.75 —	1.25 7.5
計	23.87	7.5	4.25	12.12	16.37	6.39	1.25
2	20 30 30.14	10 15 5	5 7.5 7.5	5 7.5 12.64	10 15 25.14	7.5 11.4 11.24	2.5 3.6 13.9
計	80.14	30	20	30.14	50.14	30.14	20
3	30 60 59.99	15 30 15	7.5 15 17.5	7.5 15 22.49	15 30 44.99	11.25 22.5 24.24	3.75 7.5 18.75
計	149.99	60	40	49.99	89.99	59.99	30
4	40 90 89.99	20 45 25	10 22.5 27.5	10 22.5 37.49	20 45 64.99	15 33.75 41.24	5 11.25 23.75
計	219.99	90	60	69.99	129.99	89.99	40
5	50 120 119.99	25 60 35	12.5 30 37.5	12.5 30 47.49	25 60 84.99	18.75 45 56.24	6.25 15 28.75
計	289.99	120	80	89.99	169.99	119.99	50

価格增加分ノ分配 (2)

貯蓄率  $\frac{S}{E} = \frac{1}{2}$

第十表

期間	1	2	3	4	5	
△V	△K	△W	△P	△E	△C	△S
1	10 7.5	5 2.5	2.5 —	2.5 7.5	5 7.5	2.5 3.75
計	25.5	7.5	4.25	13.75	18	10
2	20 30 20	10 15 5	5 7.5 7.5	5 7.5 17.5	10 15 25	5 7.5 17.5
計	70	30	20	20	40	20
3	30 60 40	15 30 -15	7.5 15 17.5	7.5 15 17.5	15 30 25	7.5 15 17.5
計	130	60	40	30	70	30
4	40 90 60	20 45 25	10 22.5 27.5	10 22.5 37.5	20 45 35	10 22.5 37.5
計	190	90	60	40	100	40
5	50 120 80	25 60 35	12.5 30 37.5	12.5 30 47.5	25 60 45	6.25 15 28.75
計	250	120	80	50	130	50

KU

K1

価格増加分ノ分配 (3)

貯蓄率 = 0

第十一表

	Δ兀	ΔK	ΔW	ΔP	ΔE	ΔC	ΔS	超過利潤
1	g K L 10 7.5 1.6	5 — 2.5	2.5 — 1.75	2.5 7.5 11.75	5 7.5 13.5	5 7.5 3.5		10
計	34.5	7.5	42.5	21.75	26	16.0		20
2	g K L 20 30 40	10 15 5	5 7.5 7.5	5 7.5 29.5	10 15 35	10 15 15		30
計	90	30	20	40	60	40		20
3	g K L 30 60 80	15 30 15	1.5 1.5 17.5	7.5 15 49.5	15 30 65	15 30 35		30
計	170	60	40	70	110	80		30
4	g K L 40 90 120	20 45 25	10 22.5 27.5	10 22.5 67.5	20 45 95	20 45 55		40
計	250	90	60	100	160	120		40
5	g K L 50 120 160	25 60 35	12.5 30 37.5	12.5 30 87.5	25 60 125	25 60 75		50
計	330	120	80	130	210	160		50

超過利潤ハ全部吸收

価格増加分ノ分配 (4)

貯蓄率 = 1

第十=表

	Δ兀	ΔK	ΔW	ΔP	ΔE	ΔC	ΔS	補償
1	g K L 10 7.5 —	5 — 2.5	2.5 — 1.75	2.5 7.5 —	5 7.5 —		5 7.5 11.5	3.75
計	20	10	5	5	10		13.25	3.75
2	g K L 20 30 —	10 15 5	5 7.5 7.5	5 7.5 —	10 15 —		10 15 7.5	12.5
計	30	30	20	10	30		32.5	12.5
3	g K L 30 60 —	15 30 15	1.5 1.5 17.5	7.5 15 —	15 30 —		15 30 17.5	20
計	40	45	22.5	10	45		62.5	20
4	g K L 40 90 —	20 45 25	10 22.5 27.5	10 22.5 —	20 45 —		20 45 27.5	52.5
計	50	60	37.5	12.5	60		92.5	52.5
5	g K L 50 120 —	25 60 35	12.5 30 37.5	12.5 30 —	25 60 —		25 60 37.5	72.5
計	120	120	80	130	125		122.5	72.5

K2



3. 追加支出——追加投資が生産財部門ノ技術組成ニ変化ヲ与ヘル場合  
計重組成第一式ニヨリ考究セン

- イ. 生活財生産部門ノ技術組成ニ衝擊ヲ与ヘタル場合ニハソノ衝擊ハ一回的ニシテ変動々因トナラザルコトハ又ニ於テ示セルトコロナリ。然ルニ生産財部門ヨリ生産財(固定財流動財)ヲ抜キトルトキハ此処ニ変動々因ガ与ヘラレ。他ノ諸条件ヲ同一トセバ生産財部門ハ畧進的ニ着化スル必然性アリ(第十五表)。遂ニハ軍需擴張計画サハ破壊スルニ至ル。
- ロ. 価格関係ニ及ボス影響中貯蓄率ト消費財価格ノ関係並ニ政府追加支出中国定財貯蓄ニ支拂ハレタル以外ハ必ズ同一期中ニ貯蓄ヲ形成スルコトハ又ノ場合ト同様ナリ。
- ハ. 設備ノ移転ニ支拂ハレタル類ハ絶対ニ当期國民所得中ノ貯蓄ヨリハ還流セス。必ズ一般超過利潤同様ニ全額吸収ヲ行ハザレバ「バレンス」ハ破壊セラルベシ(第十六表)。
- ニ. 価格関係ヲ見ルニ全般的ニ価格上昇セル場合ハ生産財ノ生産減少

分ダケ単位価格ハ騰貴シ一部生産財生産者ノ超過利潤ヲ形成スベシ(第十六表)

政府支出(赤字)ニヨリ軍需財需要ガ生産財生産部門ノ技術組成ニ変化ヲ生ゼル場合(実物資本ノ関係変化)。

第十五表

	K <sub>1</sub>	K <sub>2</sub>	W	P	O	
新組成	100 300 100	20 80 40	10 30 40	10 30 40	40 120 120	
第一期	110 290 100	22 58 40	11 29 40	11 29 40	44 116 120	部門補充ノタメK部門ヨリFK10. CK2 W1ヲ抜キトリタリトス
第二期	110 290 100	22 58 40	11 29 40	11 29 40	44 112 120	K及ビLハ第一期ノ構成ヲ継続スルモノトセバ累積的ニK部分ハ細薄化ス
第三期	110 290 100	22 58 40	11 29 40	11 29 40	44 108 120	

政府支出(赤字)ニヨリ軍需財需要が生産財生産部門ノ技術組成ニ  
変化ヲ生ゼル場合(価格構造ノ変化)

計画構成	9 X 1 計		8 X 1 計		7 X 1 計		6 X 1 計		5 X 1 計		ΔS = 1/4 E	ΔC
	9 X 1 計	8 X 1 計	8 X 1 計	7 X 1 計	7 X 1 計	6 X 1 計	6 X 1 計	5 X 1 計	5 X 1 計			
OR												
FK	100	300	100	20								
CK	20	60	40	4	4							
W	10	30	40	2	2							
P	10	30	40	2	2							
O	46	120	120	8	4	8						
ΔE				4	4	4						
ΔS = 1/4 E				1	4	3						
ΔC				3	3	3						
				28	4	4						
				4	3	3						
				24	56	44						
				120	40	40						

計画組成第二式(第二表)ニヨリ軍需追加投資が固定財ノ計画配置ヲ変  
更シ行ク場合ヲ考究セン(第十七表)

イ 固定財生産補充部門ヲ吸収シ盡ス場合ハ貯蓄十減価償却分ニ対シ新追加  
軍需生産額十追加予備ガ対等ス

ロ 更ニ生活財補充部門ヲ吸収シ盡ス場合ハ新貯蓄十減価償却十生計費ガ  
新追加軍需生産額十追加予備ト対等ス。コノ場合ハ生計費ハ期初予  
備ヲ喰フコト、ナルベシ

ハ 更ニ流動財補充部門ヲ吸収シ盡ス場合ハ  
新貯蓄十生計費十運転總資本ト追加軍需生産額十追加予備ガ対等ス。  
コノ場合流動財ハ期初予備ヲ喰フコト、ナルベシ

ニ 更ニ基本計画配置ヲモ吸収シ行ケバ、固定財、流動財、生活財ノ全  
般的欠乏ヲ示シ得ベシ

ホ 以上ノコトガ追加信用ヲ通ジ行ハル、場合ハ複合的ニ価格騰貴ヲ累  
積シユクベシ

軍需補充が他部門補充ヲ吸収スル場合

α = 原料 ㄥ = 減価銷却  
 計画 S = 軍需追加生産額 + 追加予備額

(第一表参照)

第十七表

計画補充組成	K <sub>2</sub>	期予備	K <sub>c</sub>		W	P	O	C	S	追加予備	期予備
			α	ㄥ							
g'	3.9	6.1	1.85	0.1	0.49	0.49	2.93	0.49	0.49	4.1 <sup>0</sup>	10.29
K <sub>2</sub>	9.1	33	4.15	0.44	1.12	1.12	6.79	1.2	1.12	2	35
K <sub>c</sub>	3.9	12.5	1.96	1.9	4.9	4.9	29.3	4.9	4.9	1.29	13.09
∑	3.9		3.7	0.2	3.9	3.9	11.7	3.9	3.9		
計	55.9		27.3	2.6	10.41	10.41	50.92	10.41	10.41		
g'	3.9+9.1=13		6	5.5	1.61	1.61	9.22	1.61	1.61	2	10.29
K <sub>2</sub>	3.9		17.6	1.9	4.9	4.9	29.3	4.9	4.9	2	39
K <sub>c</sub>	3.9		3.7	0.2	3.9	3.9	11.7	3.9	3.9	5.7	23.9
∑	3.9		27.3	2.6	10.41	10.41	50.92	10.41	10.41		

変革第三期	g'	K <sub>2</sub>	K <sub>c</sub>	∑	計	g'	K <sub>2</sub>	K <sub>c</sub>	∑	計	
											16.9
			17.6	1.9	0.49	0.49	20.48	0.49	0.49	-6.82	12.54
			27.3	2.6	10.41	10.41	50.92	10.41	10.41		23.9-6
	55.9		27.3	2.6	10.41	10.41	50.92	10.41	10.41		10.29
			10.29								11.9
			12.54								5.74
			17.9								

変革第一期 S + α = 軍需追加生産額 + 追加予備

変革第二期 S + α + C = 軍需追加生産額 + 追加予備  
 消費 - 貯蔵ヲ喰ハシ 12.5-6

変革第三期 S + α + C + α = 軍需追加生産額

4 軍需財生産部門内ニテ資材ガ争奪セララル、場合

(発註ニ元ニヨリ軍需割当資材ガ部門内ニテ争奪セラレタル場合、如シ)

1, 2, 3 = 於テ考究セルハ、イズレモ追加投資ニヨリ、g 部門ガ他部門ヲ吸収シ攪乱スル場合ナレドモ、更ニ部門内ニテ発註ニ元又ハ発註ニ元ニヨル競争ノタメg 内部ニテ争奪行ハル、トセバ、全体ノ技術組成ハ変化セザレドモ、生産財労金ノ価格騰貴ハ交互に上ゲ行ハレ、2 = 考究セル如キ状態ノ複合ヲ呈スベシ

x x x x

又上追加支出、追加投資ノ諸場合ヲ考究セル一応ノ結果次ノ如シ

1. 新事態ニ応ズル生産計画ノ変更ト資本ノ計画的配分替(根本的態度ナルベシ)

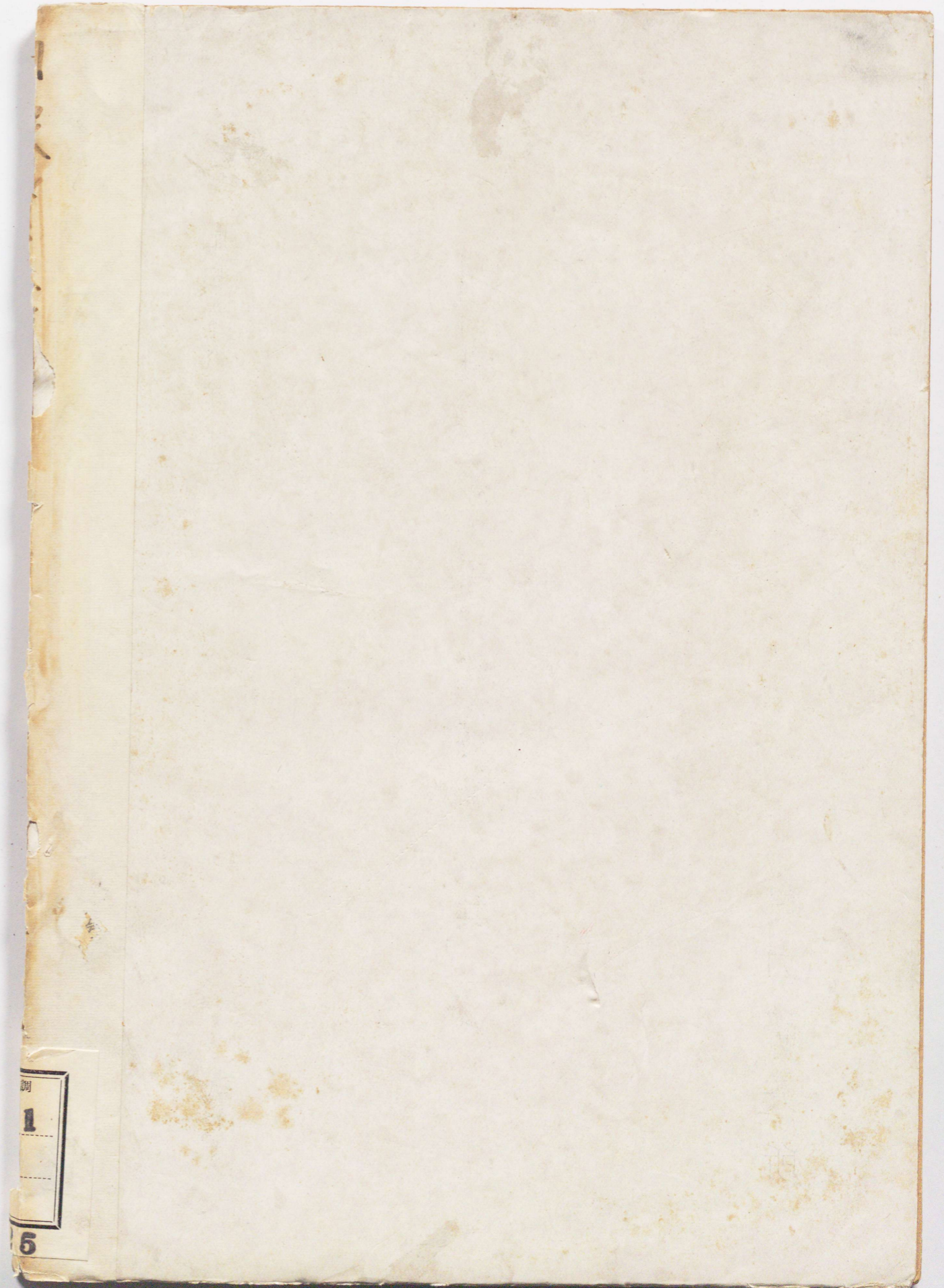
2 資本支出ノ統制——信用統制通貨統制ニヨル——ニヨリ生産財労金ノ法定額取引ノ防止、即チ金融計画ニヨル実行力ノ強化

3. 超過利潤(諸部門価格ノアンバランスヨリ生ズ)並ニ設備費用資金支出ノ完全吸収

4 貯蓄率ハ生活財価格ノ適正維持ノ立場ヨリ為スコト

5. 貯蓄計画ニ於テハ貯蓄額ノ達成ヨリハ貯蓄率ノ増進ニ目標ヲ置クコト





1  
5